

# 手外科領域の疾患

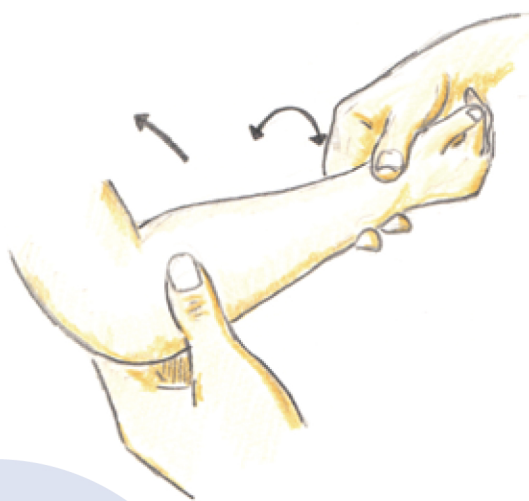
## 肘内障

今回は肘内障について説明します。転びそうになった子供の腕を上を引き上げるような動作で生じます。子供は肘を痛がり腕を動かさなくなります。2歳から6歳ぐらいの子供に多いです。腫脹がなく、レントゲンでも正常である場合、この疾患が疑われます。肘の関節の脱臼ではありません。肘の関節を構成する骨(橈骨頭)を巻いている靭帯(輪状靭帯)が近位に移動し、橈骨頭に部分的に乗りかかっているために引き起こされます。適切に整復操作をうければ、たいていコキツとした整復感とともに肘の曲げ伸ばしが可能となります。

一度起こすと再発を繰り返すこともあります。予防(手を引っ張らないこと)が重要になります。

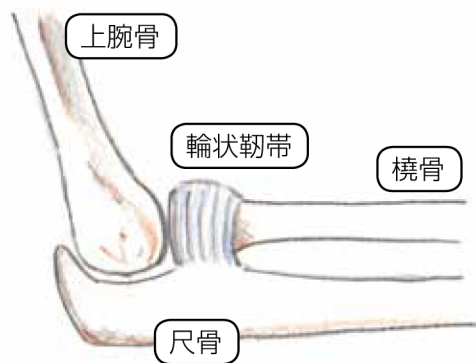


手をつないで歩いていて、急に子供が転びそうになったときなど、上方に子供の手を引っ張ることで生じることが多いです。



適切に整復操作を行うことで、コキツという整復感とともにずれた靭帯がもとの位置に戻ります。すぐに上肢を動かすようになります。

### 肘内障の病態



整形外科部長兼手術部長

中村 恒一